

自然観察会を開催しました！

おにぐるみの学校では、3月11日に冬の自然観察会を開催しました。今回の観察会では、湿地林の観察、水鳥の観察、どんぐりの苗床づくりなどを行いました。

ビオトープの中では、枯れた草の中からサネカズラやマンリョウが芽吹いていたり、葉の落ちた木の幹に大きなサルノコシカケを発見したり、草花が覆い茂る季節には見られない発見がたくさんありました。

また、ビオトープ内にどんぐりの苗床を作り、去年の観察会で拾ったどんぐりから育てた苗を移植しました。



水鳥の説明

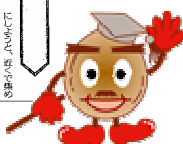


どんぐりの苗床づくり



この観察会の様子が新聞に載りました！

(3月17日の毎日新聞)



おにぐるみの学校会員募集

一緒に木の岡ビオトープを守りませんか？

おにぐるみの学校では、「木の岡ビオトープの清掃」や「どんぐり苗の植樹」などを行っており、今後も木の岡ビオトープにおいて様々な活動の企画を予定しています。

そこで、この度これらの活動の更なる充実を図るため、木の岡ビオトープの保全・利用に向けた活動に理解・賛同し、活動に参加もしくは支援して下さる個人や団体を対象に会員募集を行います。

会員は、ニュースレター"おにぐるみ通信"の配信や、各種活動の案内のご送付、イベント等へ優先的にご参加いただけます。

みなさんで木の岡ビオトープの現状を理解し、地域に親しまれ、愛される場所としていくための活動に取り組んでみませんか。みなさんのご参加をお待ちしております。

発行者

おにぐるみの学校事務局
滋賀県土木交通部河港課河川環境担当
TEL:077-528-4154 FAX:077-528-4904
E-mail: ha04@pref.shiga.lg.jp
URL: <http://www.pref.shiga.jp/h/kako/>



木の岡ビオトープ

おにぐるみ通信

ニュースレター
創刊号
(H19.4.1)

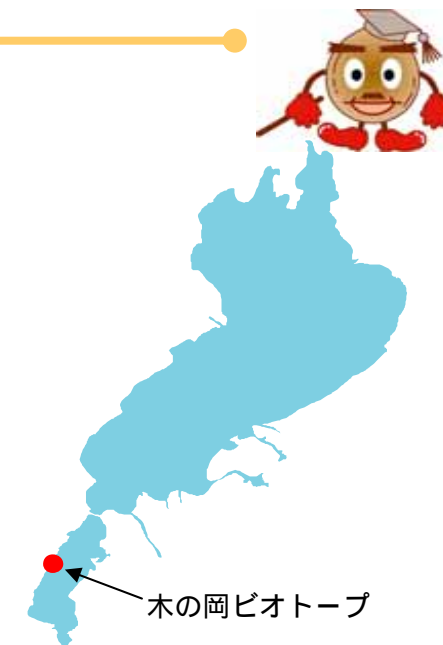
ニュースレター発行にあたって

琵琶湖は、古代からそこに注ぐ川や水路と共に生きものたちに生息場所(ビオトープ)を提供してきました。

しかし、近年は琵琶湖沿岸の開発等が要因となり、生き物たちの生息場所が失われています。

おにぐるみの学校は、木の岡地区に残された貴重なビオトープを子供たちに残していくために、木の岡ビオトープを守る活動を行っています。

このニュースレターは、「木の岡ビオトープ」や、「おにぐるみの学校の活動」をより多くの人に知っていただくために、定期的に発行するものです。



木の岡ビオトープ

木の岡ビオトープとは

残されていた自然環境(木の岡ビオトープ)

木の岡地区の湖岸は、湖底がなだらかな傾斜をなし、陸域から水域まで、様々な水辺特有の植物が生育しています。これらの植物は水中と陸という異なった環境を緩やかにつなぎ、多くの生物が相互に関係を持ちながら存在する良好なビオトープになっています。

木の岡地区は、市街化区域の広がる南湖の沿岸でありながら開発の手から免れており、幅が100m、面積が4haにもおよぶまとまりのある自然環境が残された非常に貴重な場所です。



上空から見た木の岡ビオトープ



ビオトープの中の様子



琵琶湖南湖沿岸で幅 50m を超える植生帯は木の岡地区と烏丸半島の 2 箇所しか残っていないんですよ。

ビオトープとは

ビオトープとはギリシャ語で「bios」(生物)と「topos」(場所)の合成語で、生物が生息している場所のことです。

木の岡ビオトープを守る取り組み

木の岡ビオトープの生態系を保全・再生し、適切な利用を図るために、平成14年度から様々な活動が行われています。

<木の岡ビオトープに関するこれまでの経緯>

【平成14年度】

大津市木の岡地区ビオトープ保全利用推進協議会の設立
大津市木の岡地区ビオトープ保全整備学術委員会の設立



【平成15・16年度】

- ・保全・利用に関する基本的考え方の整理
- ・現地調査（生物調査）
- ・地元住民との懇談会
- ・木の岡地区ビオトープ現地視察



協議会の様子

木の岡ビオトープ保全・利用に関する基本方針の策定*1



【平成17年度～】

木の岡ビオトープ保全・利用準備委員会の設立
おにぐるみの学校の設立

- ・ビオトープの整備・維持管理
（ごみ拾い、看板の作成等）
- ・ビオトープでの自然観察会の実施
- ・ビオトープに関する広報活動



ごみ拾いの様子

*1:

木の岡ビオトープ保全・利用に関する基本方針

琵琶湖に残された自然環境を保全し、次世代に引き継ぐための維持管理を行う

木の岡ビオトープ全体としての自然環境や機能を重視し、ビオトープの保全利用を図る。各ゾーンの特性を踏まえ、きめ細かくビオトープの保全利用を図る。自然環境を保全し、環境学習の場として利用できるよう、整備を行う。子供も大人もともに体験し、継続的に学んでいけるような環境学習の場として利用する。環境学習の一環として、生物に配慮したビオトープ管理を行う。ビオトープ管理とともに継続的なモニタリングを行う。地域に根ざした活動をとおり、地域住民と専門家、行政との協働を推進する。

おにぐるみの学校の活動



木の岡ビオトープ自然観察会の開催

おにぐるみの学校では、これまでに木の岡ビオトープで植物や昆虫、水鳥の観察、野草の天ぷらやおにぐるみの試食など様々なイベントを行ってきました。

<野草の天ぷらの試食>



<どんぐりの苗木づくり>



<水鳥の観察>



木の岡ビオトープの保全・整備活動

おにぐるみの学校では、入り口の階段の整備や、看板の作成、ごみ拾いなどの木の岡ビオトープの整備を始めています。今年度は、散策路の整備などを行っていく予定です。

おにぐるみNews

ビオトープの入り口の看板が完成しました！
この看板は、おにぐるみの学校のメンバーの手作りです。近くに来られた際には是非見てみてください。



<入り口階段の整備>

<看板の作成>



木の岡ビオトープの生き物たち

木の岡ビオトープでは様々な生物が生息しています。平成15年に滋賀県が実施した調査では、植物が約340種、昆虫類約410種、鳥類約60種、哺乳類6種、魚類12種等たくさんの生物が確認されています



オニグルミの種子

【木の岡地区で見られる生き物】

オニグルミ

山あいの川沿いや岸辺に生える落葉高木です。高さは20mを超え、幹の直径は1mにもなります。

オニグルミの種子はおいしく、料理やお菓子などに広く利用されます。

木の岡ビオトープでは夏に木の枝に黄緑色のブドウのような実がたわわに実った光景が見られます。「おにぐるみの学校」の名前の由来となった植物です。